

序

近年わが国においてはオイルショックに次いで、世界的食糧需給のひっ迫あるいは、外国の農産物輸出規制等により食糧についての関心が高まり、食糧の自給について真剣に考えざるを得なくなってきたようであります。

現在、動物性蛋白質の52%を漁業で賄っているわが国は、海洋法による海外漁業のしめつけにともない、沿岸、内水面漁業に大きく期待しなければならないことになってきました。今や我々の出番が来たという感を深くします。

昭和49年度事業概要の刊行にあたり、この年を回顧してみますと青森県の総水揚げは61万1,000トン、金額にして668億円、数量では前年度に及ばないにしろ金額では今迄の最高を示していました。青森県の水揚げ金額で云えば、スルメイカ、サケ、スケソウダラが3位までを占めていたのでありますが、昭和49年においてはホタテガイが3位に躍進していて、これは青森県での栽培漁業の成果と大いに自負していたところであります。

翌、昭和50年にはホタテガイの異常へい死という大問題が起こるとも知らずに、ただひたすらに増産への道を歩んでいたように思われます。

こういう背景において事業概要第5号を発行することになりました。

皆様方の御批判、御指導を賜りますれば誠に幸せであります。

青森県水産増殖センター

所 長 津 幡 文 隆